

会 議 録

全部記録

要点記録

1 会 議 名	姫路市地域医療連絡会議（第1回）
2 開催日時	平成28年5月31日（火曜日） 13時15分～15時
3 開催場所	姫路市役所北別館3階 講義室
4 出席者又は欠席者名	委員 16名（欠席者 1名）、オブザーバー 7名
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、0名
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 委員紹介3 座長及び副座長の選任4 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 本市の医療施策について(2) 外科系一次救急に関するアンケートの結果について(3) 姫路における県立病院のあり方に関する検討委員会報告書について(4) 今後のスケジュールについて5 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

D委員	<p>整備場所をイベントゾーンで建設していくとのことだが、ドクターヘリの安全性や騒音等様々な問題があるが、どうお考えか。</p> <p>また、救急医療電話相談については、多くの相談を受けてもらい、助かっているとの市民の声を聞いている。</p>
Bオブザーバー	<p>ドクターヘリについては、5月にポートアイランドに県立こども病院が開院した。現場からは、それほど騒音にはならないと聞いているが、現地の調査を踏まえて検討していく。</p>
副座長	<p>姫路市救急医療電話相談については、相談員数を徐々に増やしている。現在は、小児科のみのため、内科へも拡充していけるように対策を考えていく。</p>
E委員	<p>今後のスケジュールについて、新病院整備についてある程度大きな枠組みの説明はあった。今後、パブリック・コメントまでの間に、地域の医療関係者の思いを反映してもらえるのか。地域の病院は、それぞれの特徴を活かしてやってきた。意見を聞いてもらえるのであれば、姫路市医師会として、病院関係者を集めて、意見を集約したい。具体的にどのようなようにお考えか。</p>
Bオブザーバー	<p>医師会の皆様と意見交換をしていきたいと考えている。詳細については、また相談させていただきたい。</p>
F委員	<p>外科系一次救急に関するアンケートについて、診療所の回答率が56%だったため、全体の回収率が67%に留まったことを残念に感じる。結果については、8割以上が日常診療の合間を縫って一生懸命対応しており、その中で、診療時間外に6割が対応している。外科系一次救急に対する体制づくりが非常に重要であり、最大のウィークポイントであると思う。また、在宅輪番等の何らかの外科系一次救急に対する体制が必要との回答が7割あるので、やはり必要と考える。しかしながら、様々な理由により、体制を整備しても、6割が参加できないとの回答も、真摯に受け止めざるを得ない。近々に体制を整備しても現状ではなかなか難しいと思う。今後、専門部会の中でもアンケート調査結果を踏まえて解決策を模索していかないといけない。また、県病院局にお願いしたいのは、新病院の機能の一つとして、診察スペース、外科系の電話窓口の設置等外科系一次救急患者を受け入れるシステム作りをお願いしたい。</p>
Bオブザーバー	<p>一次救急は、市が行うものであり、県は重症患者を優先している。ただ一方で、地域の医療ニーズがあると思うので、その中で対応できることがあれば対応していきたい。</p>
副座長	<p>外科系一次救急は、市事業となる。外科系一次救急を何とかしないとけないとの思いで、アンケート調査を実施した。仮に、新病院で体制づくりを整備してもらえるにせよ、開院されるまでの間、今現在で取り組める範囲でどうにかしていかないといけない。本会議の専門部会を開催し、何か良い策を見つけていきたい。</p>

G委員	<p>一番の課題は、救急体制ができていないことである。県病院局の説明では、その辺りがはっきりとしていない。一次救急について受け入れてもらわなければ、何ら解決されない。もう少し明確にご説明いただきたい。この地域の医師数は少なく、現状は夜間を徹しての過重労働となっている。そういった中で、新病院が完成しても、一次救急について受け入れてもらわなければ、それらは何ら解決されない。この地域の特徴としては、地域完結率が非常に高い。診療機能についても、他の地域と比べても高いレベルで完結している。自己完結を高めていった事実を踏まえて機能を考えていただきたい。民間病院がそれぞれ協力してやってきた歴史もある。もっとこの地域の医療機関の考えを聞いていただきたいし、相談してもらいたい。</p>
Bオブザーバー	<p>まずは、実際のところ、重篤患者の受け入れが大きな課題と考えている。広域部会、地元の医師会と丁寧に話を進めていきたい。ただ大きな病院を作るということではなく、この地域に医師が戻ってくる、また、医療支援が増えるということで皆様と進めていきたいと思っている。それぞれでの特徴、専門性を知っていききたいと思っている。一緒にこれからやっていきたい。</p>
座長	<p>ぜひ、意見交換をしていただきたい。</p>
H委員	<p>難抜歯、顎顔面の外傷や腫瘍等を扱う口腔外科については、現在、既存の病院で充足している。新病院によって、既存の口腔外科が弱体化しないようにご配慮願いたい。入院患者に対する口腔ケア等の充実・拠点づくりと一般の歯科診療所では対応の難しい有病者に対する歯科治療を行う歯科・口腔外科の新設を希望している。</p>
Bオブザーバー	<p>検討していきたい。</p>
I委員	<p>現在、急病センターで夜間1、2名勤務しているが、薬剤師会の少数の有志で勤務している状況である。そのため、薬剤師を募集しているが、あまり増えていない状況である。市としても支援してもらいたい。また、イベントゾーンの敷地の中で、調剤薬局を配置できるようであれば、地域の者が勤務できるようにしてもらいたい。</p>
事務局	<p>急病センターでの薬剤師不足は承知している。薬剤師会の皆様と協力して検討していきたいと考えている。</p>
Bオブザーバー	<p>病院の敷地で建設するのは、病院のみである。</p>
J委員	<p>医師は偏在して少ないということだが、看護師も不足している。育児や出産で途中リタイアするケースが多く、なかなか定着しない現状がある。大きな病院を建設する場合、子育て支援等踏まえて検討する必要がある。</p>
Bオブザーバー	<p>県立病院においても看護師の確保は苦労しているところである。県内で取り合うということではなく、近隣のみならず、遠方からも看護師を集め、定</p>

副座長	<p>着率をどう高めていくための取り組みは大事である。新病院の中でも検討していく。</p> <p>現在の市の子育て支援では、不十分であると認識している。今後、何ができるか、またご相談させていただく。</p>
K委員	<p>医師・看護師が不足しているとよく耳にする中で、新病院は2病院を単純に足しただけであり、不安である。市としても少子高齢化が進み、人口減少が始まったと聞いている。設備等の耐用年数は30～40年だと思うが、そのような少子高齢化していく中で、このような規模の大きな病院が本当に必要なのか。</p> <p>また、専門性のある病院として、各病院それぞれ努力されている。要望として、それらのノウハウを活かして、30年先に良かったなと思える病院を作っていただきたい。</p>
Bオブザーバー	<p>この地域の人口当たりの医師数は少ない。ただ一方で、一定の医学部進学者がいるので、地域に戻ってくる仕組み作りが必要である。専門病院は、不況に陥っている。病院には総合的な力が必要。市民の方の意見を踏まえて検討していきたい。</p>
L委員	<p>患者の側からの立場では、市内北部に居住しているので、姫路循環器病センターへのアクセスは不便であった。姫路駅前に建設されると大変便利だと考えていたが、一次救急はなし、三次救急のみとの話であった。アクセスの良いところの大きな病院ができると考えていたが、少し違った。また、姫路循環器病センターの委員会へ出席した際、建替の話があったが、このような話題は挙がらなかった。姫路循環器病センターへのアクセスが悪いこと等は前々から承知していたはずだ。当直の医師が不足している中で、規模の大きな病院を建設して必要な医師が確保できるのか。</p> <p>高校で奨学金の説明をされたが、対応が遅いのではないかと。</p> <p>また、医師に対し無償で貸し出す奨励金があるが、受けても市に戻ってこないこともあると聞いている。</p> <p>要望としては、子育て支援として病院の中に託児保育所をつくっていただきたい。</p>
Bオブザーバー	<p>断らない救急を尼崎総合医療センターでも実施しており、一次救急について受け入れないということではない。この地域の最も大きな課題は、重篤患者がたらい回しにされていることであり、最優先に考えている。その中で、この地域の課題として一次救急であれば、市が担当しているが、断らない救急が大きなコンセプトであるため、協力していく。県のみで決めることではない。</p> <p>奨学金制度の創設は、遅いかもしれないが、お金の問題ではなく、郷土愛であり、制度はケアが必要であり、ケアすることで制度が有効なものとなる。つながりをなくすと医師は戻ってこない。奨学金制度をお金だけで考えると有効ではないが、地域への貢献や医師としてのキャリアも充実させ、実施し</p>

副座長	<p>ていきたい。更なる定着に向けて努力したい。</p> <p>本市では従来より臨床研修医奨励金制度を作っており、奨励金を受給した期間、市内の医療機関において勤務すると返還を免除するといった制度である。あくまでも医師になってからの話であり、学生に対する奨学金を検討したこともあったが、市のレベルでは大変な労力、年月がかかるので、医師を対象として、臨床研修医として市内に来て馴染みを持っていただき、定着していただきたいとの思いである。この度、県の提案で奨学金制度を挙げられているので、二つ合わせて強力な医師確保になるのではないかと期待している。</p>
M委員	<p>高齢者の立場からお聞きしたいこととして、資料1の中で、医療介護連携手帳（P5）とあるが、医師が発行するのか。</p> <p>また、希望者だけに発行されるのか。</p>
事務局	<p>医療介護連携手帳については、昨年度部分的に実施し、今年度より主に、要介護認定を新たに受けた方で希望された方に担当を通じて配付したいと考えている。対象者は、希望者のみであり、すべての高齢者が対象ではない。要介護認定を受けると、ケアマネジャーという介護サービスのコーディネーターがつくので、その方を通じての手続きとなる。</p>
A委員	<p>医師・看護師の人材確保が大きな課題である。若手医師は、自分より優れた医師の下で学びたい、一方、経験のある医師は若手医師を育てたいとの思いがある。新病院整備により、どんどん人が集まってくるのではないかと思います。播磨地域全体で医療人材をいかに求心していくかということが重要である。</p> <p>また、新専門医制度により、大学病院や大都市の大きな病院へ人材が行ってしまうのではないかと県としては危惧している。本会議の意見を県として真摯に受け止め、中央へ持っていきたい。</p>
N委員	<p>地域の救急の現場において人材が減少している。高齢化の中で、新病院が一番相応しいのではないかと考えている。地域の医師会の努力や民間病院の努力を踏まえた上で、新病院と連携して、専門医、指導医が他の地区に取られないように、スピード感を大事にして新病院の話を進めていきたい。</p>
O委員	<p>整備場所の候補地として、イベントゾーンが挙げられているが、市の内部で、新病院との関係部署間の課題整理のため、5月にワーキング・グループを設置して各担当が集まり、情報交換、情報共有を行っている。本会議の意見を踏まえて、事務を進めていきたいと思っている。</p>
Pオブザーバー	<p>新しい救命救急センターができることは、重症患者にとっては良いことである。問題は、姫路市において、受け入れを4回以上断られるケースが何年経っても解消されないことである。姫路聖マリア病院では、受入率が70%で、30%を無くすよう取り組んでいる。しかしながら、救急車の中から直接連絡がくることが多く、情報システムからが非常に少ない。市情報指令セ</p>

事務局	<p>センターが情報をすべて統括することで、断られるケースも減り、より良くなると思うがどのようにお考えか。</p> <p>本市においては、照会は、救急隊、指令センターから行っている現状である。消防局のシステムとして、各病院の当直の状況等、救急車内からも確認できるシステム体制を整えている。</p> <p>この地域の病院には専門性がある、地域内で何とか救急搬送をできる限り収めたいとの本人や市民の方からの要望もあり、医療機関に対してある程度依頼しているのも事実である。</p>
Q オブザーバー	<p>本会議で様々な立場の皆様からの意見を聞いて、新病院については誤解を解く方向で話を進めていかないといけないと感じた。人材の確保が重要であり、若者の目線で物事を考えていかないと医師不足は解消されない。</p>
R オブザーバー	<p>新病院の機能については、地域の救急医療を担うのが主な目標との話があった。市内には300床を超える医療機関が5つあるが、それぞれの病院の特徴や長所があるので、新病院建設によってバランスを崩して欲しくない。規模の大きな742床で考えられているが、いかに医療スタッフを集めるかが大きな問題である。将来的には姫路出身者の地元への回帰が出ていたが、新病院開院により、さしあたって他の病院の医療スタッフの引き抜きは避けたい。医師の異動には出身大学が絡むが、そのあたりをどのようにお考えか。</p>
B オブザーバー	<p>姫路市は中核市であるので、医師の確保や救急医療の話は、全体的な話として解決していきたい。医師確保について、パイの奪い合いをしても地域は豊かにならない。できる限り、地元に戻していきたいのが基本的なところである。岡山大学、京都大学、神戸大学等それぞれ関連病院もあり、臨床研修医制度によって地元へ戻ってきやすくなるのではないかと考えている。</p>
S オブザーバー	<p>獨協学園の機能がどのようなものか分からないので、情報として本会議に挙げてもらいたい。大きな病院を考えているが、すべてを補えるとは考えていない。ぜひ、皆様、特に市の協力が必要である。イベントゾーンの駐車場に関しても文化・コンベンションエリアと高等教育・研究エリアで共用となるのか等、市と一緒に協議する機会を持っても良いのではないかと考えている。</p>
座長	<p>獨協学園の話は、次回市の方からご説明いただきたい。</p> <p>5 閉会 (15:00)</p>